

## 浜村地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年10月22日（月）19：00～20：10
- 2 場所 浜村地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 8名  
市出席者 4名（深澤市長、安本地域振興局長、神谷教育委員会事務局次長、  
武田気高町総合支所長）



#### 4 テーマ 地域活性化の核となる拠点の必要性について

#### 5 概要

（地元あいさつ）

地元から要望していた鳥取西道路の早期開通について、尽力いただき厚くお礼を申し上げます。

本公民館は昭和50年に建築され、築後40年経って老朽化が進んでいる。耐震性についても、基準に合致していない状態である。公民館は地区民への情報発信や交流の場であり、地区にとって必要不可欠な施設だと思っている。利用者等の安全安心を確保するため、他の施設と複合化してでも、建て替えを早期にお願いしたい。

浜村温泉館は平成28年4月から休館となっている。浜村温泉は500年以上の歴史があり、湧出量も多い。また、全国的に知られている貝がら節の発祥地でもあり、浜村地区や浜村温泉街の振興活性化のために必要不可欠な拠点施設だと考えている。この温泉館の再開については、鳥取市では当初平成29年度内に方針を作ることになっていたと記憶している。その後、地元との協議があったが、方向性がまだ出ていない。また、鳥取市では公共施設の経営基本方針や再配置計画、それからPPP<sup>\*</sup>導入検討指針を作っているが、温泉館再整備についてはこの3つの方針に沿って検討されていないのではと感じている。来年の夏までには、鳥取西道路も全線開通し、道の駅西いなば<sup>きらり</sup>気楽里のオープンとなる。相乗効果も期待で

きると思うので、ぜひとも早急をお願いしたい。

※PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）…行政と民間が連携・協働して、公共施設の整備や公共サービスの提供等を行うこと

### （市長あいさつ）

西道路の進捗について、国土交通省は来年の夏までにとっているが、順調にいけばもう少し早く供用開始になるという話も聞いている。これをチャンスとして捉え、浜村地区はもとよりこの西エリアがこれからさらに活性化を図っていく時期ではないかと思っている。この浜村温泉をどのように活用していくかということも、この機会に地元の皆さんと一緒に考えていかなければならないと思っている。

### 浜村地区の取組みの説明

#### <テーマの背景>

浜村地区は500年もの長い歴史を誇る温泉を有し、温泉の町、貝がら節のふるさととして栄えてきた。しかし、今では数多くあった旅館も2つとなり、かつての温泉街の賑わいを失っている状態である。

近年、まちづくり協議会をはじめとした地域活性化の活動が活発になり、地域住民の集まる機会が増えている。加えて、来年には鳥取西道路の全線開通、道の駅「西いなば気楽里」のオープンが予定されている。これを絶好の機会と捉え、地域活性化に取り組むためにも、核となる拠点が必要と考える。

#### <地域の取組み>

##### ●浜村地区公民館の建築について

平成29年7月5日付けで、浜村地区の区長名（全15集落）で、鳥取市に浜村地区公民館を建設していただくよう要望書を提出した。

浜村地区公民館は、気高町コミュニティセンターの事務室を間借りしており、会議室等を利用するにも、気高町分室との利用調整や利用許可申請が必要である。会議室の最大収容人数が80人程度と住民約4,500人としては手狭である。また、倉庫、書庫等の収納場所もなく困っている。地域コミュニティの核として、いつでも、気軽に立ち寄れる地区公民館にしたい。また、生涯学習の場としてサークル・グループ団体の場所提供を積極的に行っていきたいと考えている。

##### ●浜村温泉館の再生に向けて

浜村温泉館を地域のまちづくりの拠点としたいとの考えから、平成29年6月に「浜村温泉館あり方検討委員会」を立ち上げた。以降、平成30年3月まで10回を数える検討会を開催し、浜村温泉館再生プランを取りまとめた。その後、4月から、より具体化を進めるため、「浜村温泉館再生事業会社（仮称）」設立準備委員会を立ち上げ、現在まで7回の会議を開催し、事業計画、収支計画を検討している。

(地元)

一昨年の中部地震では、地区公民館は職員も外に飛び出すほど揺れた。他の施設の方は外に出ておらず、やはり耐震性に問題があるのではないかと考えている。

鳥取市では、平成31年度までに公民館を新耐震基準に合致させると聞いている。難しい部分があると思うが、公民館は災害時の避難場所になり、不特定多数の人が利用するため早急をお願いしたい。

冒頭のあいさつで、複合施設で、と言ったが、この公民館の対面には、社会福祉協議会や、浜村小学校の児童クラブに使っている旧幼稚園などがある。市の所有施設ではないものもあるが、方法はいろいろあると思う。

建て替えの際には、ぜひとも人と環境にやさしい木造にしていきたい。木造建築には国の補助制度もあるので、そういったものを活用しながら建て替えをお願いしたい。

(市長)

このコミュニティセンターは、先ほど昭和50年との話があったが、支所で確認したところ、もう少し古く、昭和48年に建築されたもののようだ。

耐震診断結果には、IS値という一つの目安となる数字があり、この建物は0.4である。一般的には0.6を下回ると少し耐震性に問題があり、0.3を下回ると使用を考えないといけない状態である。0.4は基準がクリアされてない状況であり、耐震改修や更新が必要である。

鳥取市は公共施設を計画的に更新していこうとしており、この気高町のコミュニティセンターについては、2016年から2024年までに、どうしていくべきかを検討していく施設として区分している。順次更新時期がくる公共施設について、施設の複合化や統合を検討していく必要があると考えている。あるものをなくすのではなく、使い勝手も考えて複数の施設を1か所に機能集約する工夫をしていこうということである。

社会福祉協議会の施設も合わせてという話があったが、そこまでは念頭に置いてなかった。しかし、少なくとも浜村地区公民館、気高町コミュニティセンター、そして提案のあった社会福祉協議会の施設を念頭に置きながら複合化も含めた更新の検討を進めていかなければならないと考えている。

これから人口減少や高齢化が進む中で、地区公民館はそれぞれの地区において重要な役割を果たす公共施設だと考えており、その整備は必要なものだと考えている。地域の皆さんのいろんな考えや思いもしっかりお聞きして具体的な検討を進めていきたい。

(教育委員会事務局次長)

公民館の役割には生涯学習という大きな柱があるが、コミュニティという生涯学習の枠を超えたもっと広い意味で、地域の皆さんがつながったり、イベントをしたり、いろんな取り組みをしていくことが地域の活性化につながっていくのだろうと考えており、今議論もしているところである。

ただ、どの施設を複合化するかについてはこれからの検討となるが、耐震の問題もあるので、すみやかに議論を進めていく必要があると考えている。

(地元)

ぜひ検討の中に入れていただきたい。

(市長)

木造について回答していなかった。県産材を取り入れていくことは、引き続き進めていきたいと思っている。特に県産材を公共施設でも積極的に活用していきたいと思っている。

(地元)

今のコミュニティセンターを建て替える場合、不便かもしれないが、浜村小学校ぐらゐの高い所に建てていただきたい。私は小さいころから住んでいるが、昭和30年代の末に大水害に遭って、このあたりは川が氾濫して一帯が水没しており、決して安心できる場所ではない。高齢の方なら大体知っている。災害になるとここに避難するよう言われるが、ここに避難しようと思う人はいない。なぜなら、地域の皆さんは以前に氾濫したことを記憶しているからである。

地域の方からも、なぜそんな所にわざわざ命をかけて逃げて行くのかと言われたことがあるが、ここが決められた場所だからと話している。しかし、ここが本当に危険な場所だと私もよく知っているので、場合によって浜村小学校に逃げるよう、私は誘導するだろう。

私は区長をしており、地域の責任ある立場、皆さんの命を預かっている立場として何とかしてあげないといけぬ。ただ、義務的にここに決まっているから、ここに避難してくださいと言っているのでは、私たちがいる意味がない。

そういったことも考えていただき、建て替える場合は、不便でももう少し高い場所、津波や水害にも耐えられる場所をお願いできたらと思う。

(市長)

災害に強い場所であり、施設であるように考えていきたい。いろんな意見もあるかと思うので、しっかりと地域の皆さんの意見もお聞きしながらということになるかと思う。

(地元)

私は生まれて50年、気高町からほぼ出ていない。高校を卒業してから地域の活動に参加して思ったことは、この建物は、地域ではいまだに、気高中央公民館として認識されているということだ。浜村地区公民館は部屋を借りて細々と公民館を置かせてもらっているような格好であり、短期間に何度も引っ越しするなど、なかなか拠点となる場所がなかった。

他の地区では地区公民館が学校のそばにあり、体育館も併用して使えるところもある。中央公民館のときは小さいながらも体育館があり、そこで浜村地区公民館の行事等をしていたが、会場の名前が気高中央公民館となっており、地域からは浜村地区公民館があまり活動してないのではないかと、どちらの行事で参加しているか分からないという声があった。

もし、建て替えるのであれば、浜村小学校の近くに公民館ができれば理想だと思う。トレーニングセンターのそばもいいかもしれないが、あそこは低い所にある。そういったところも考慮していただけたらと思う。

(市長)

更新時期がやってきており、総合的に考えて検討していかなければならないと思っている。場所についてはいろいろ意見があり、他の地区では、1年あるいはそれ以上もかけて検討したケースもある。災害対応も含めてしっかり皆さんの意見を聞いていきたいと思う。

(地元)

場所についての不安を訴えているので、明確な回答をするべきだと思う。水害地域がどのように想定されているのかを踏まえた上でどこに建てるかを考えていけばいいと思う。

支所が同じ場所に改築をしているのも、それなりの根拠や考えがあってのことだと思うので、その点について、補足の説明をいただきたい。

(市長)

気高町コミュニティセンターを含め、自主避難所は鳥取市に10か所ある。この避難所はいろいろな災害が発生しても、それに耐えられる安全な場所であることが大前提となっている。ここは津波も含めて、水害の場合も大丈夫な場所と考えており、決して川の氾濫や浸水が想定される所に避難してくださいということではない。そういった安全を確認した上で、自主避難所という位置づけをさせていただいている。

支所とも連携しながら、それぞれの河川の水位がどのように変化しているか、約10分間隔で状況を把握し、避難が必要になったら避難勧告、避難指示を発令させていただく。その際に、近隣の小学校のほうが今は安全ではないかという状況であれば、そこを避難場所に指定して避難していただくといったことを随時行っている。

(気高町総合支所長)

防災マップ等を見ていただいたら分かると思うが、ここは浸水区域には指定されていない。先ほど昭和30年代後半の話があったが、その際は内水の排水対策がされておらず、浜村川に排水ができなかったためではないかと思っている。今は勝見川に排水ポンプが設置されており、浜村川に排水するようになっている。その後もいろいろな方面で排水の対策がされている。

また、浜村川へ流れ込む勝見川の排水対策として、勝見集落の南側に勝見川の放水路を整備するよう、県が計画しているようである。そういうものがあれば、今後も浸水が少なくなってくると思っている。一時に雨が降ると、内水部が高くなり、田んぼが池のようになってしまうのは事実だが、コミュニティセンターは浸水区域として指定されていないので、大雨の際は避難していただいても問題ない。ただし、ここは耐震性がないので、地震の際は浜村小学校に避難していただくということになる。大規模な災害等についても、浜村小学校を避難場所として指定をさせていただいている。

浜村川は昭和30年代以降、河川改修等で整備され、対策をしている。新永江川も整備されているので、昭和30年代とは状況が全く変わっている。

(地元)

もしも改築となれば、地元でもいろいろ検討し、お願いすることがあるかと思う。

(司会)

続いて温泉館の再生について話をしたい。

(地元)

浜村地区では、都市再生整備計画等で観光道路の街路灯や、浜村駅前を整備していただいで本当にありがたいと思っている。浜村温泉館の大きな目標は、5年後に年間10万人の集客である。そのうち入浴するのは7万5千人と考えており、入館していろいろと設備を利用していただくことによって10万人を達成するという計画のもとに進めている。

温泉館については貝がら節の伝承館とすることや、施設の中でゆっくりしていただきたいといった内容で、10月16日に鳥取市の経済観光部にビジョンの相談をしている。

また、山陰合同銀行からも力添えをいただいでおり、いろいろ提案、指導をいただくことになっている。具体的な内容についてはまた報告をさせていただきたい。

今、市だけでなく、住民が一丸とならないといけないということで、9名で構成している温泉館再生事業会社の準備委員会で、月1回議論しており、皆さんの意見をいただいで進めているところである。いろいろシミュレーションしており、鳥取市にも還元できるように考えている。今は集中管理の温泉を使ってない状況であるといったことも踏まえて進めていきたい。指定管理がなかなか難しいということでPPP等、いろんなやり方でやっていこうと考えているので、鳥取市には修繕等いろいろお願いしながらやっていくしかないと思っている。早い時期に結論を出していただきたい。

仮称ではあるが、浜村温泉館再生事業会社を立ち上げる予定である。分からない点については、質問いただければ説明させていただく。

(市長)

浜村温泉は非常に素晴らしい地域資源であり、もっと活用していく方法を考えていかないといけないと思っている。鳥取西道路開通にあわせて、吉岡温泉地区も吉岡温泉館に取組まれており、浜村も同じような取組みになるのではないかと思う。この鳥取市に温泉という名がつくインターが2つできるのではないかと考えており、ぜひ皆さんと一緒に進めさせていただきたい。

ただ、従前の温泉館をまた復活させるのではなく、もっと浜村温泉を生かしながら、より多くの皆さんにお越しいただけるような施設であるべきと思う。浜村温泉館の再生事業会社を立ち上げられるということで、私たちも一緒になってこの取り組みを進めさせていただければと思っている。また、山陰合同銀行のイノベーションプログラムにも申し込まれているということで、これを好機として捉えて、進めていければいいと思っている。

(地元)

その山陰合同銀行のプロジェクトに入って成果が出ればいいと感じているが、なかなか分

からないところもある。たくさんの資料も送らせてもらっているのでどうかよろしくお願ひしたい。

(地元)

市はPPP導入検討指針を作られている。要は民間の資金や技能といったものを活用して公共施設の再整備を図っていこうということだと思う。鳥取市民体育館や城北の地区公民館、保育園等では、PPPということでサウンディング型の調査※をされている。この浜村温泉館についてもそういったことはできないものだろうか。

※サウンディング（サウンディング型市場調査）…施設整備や未活用施設の有効活用等に向けた検討にあたって、整備内容や活用方法について民間事業者から広く意見、提案を求め、対話を通じて市場性や民間事業者の参画可能性等を調査、検討すること。

(市長)

そういう方法もある。民間の活力をうまく導入することで、鳥取市の負担を少なくしつつ、直営でやるよりもいろんなアイデア等を入れることが可能になる。そういう手法を公共施設の整備に取り入れていくような時代になっていると思う。もちろん浜村温泉館においても大いに考えていかなければならないと思っている。

(地元)

温泉館がどのようにうまく再整備されていくのかということが、この地域にとって大きな関心事であると思っている。地域の拠点を1つ持ちたいということが地域の思いであり、不足している部分をいかに充実させていくかが我々の仕事だと思っている。

空き店舗のリノベーションの取組みなど、最近、浜村にはなかったことが起りつつある。先日中古車屋が取り上げられたこともあり、今までとは違った芽が少しずつ出始めていると思う。道の駅のオープン等に合わせながら、こういった雰囲気地域に呼び込んでいく努力が必要だと思っている。踏み切りを渡ったところに浜村乙亥正線おつがせという道があるが、ぜひ来年に向けて、この路線もつないでいただきたい。道の駅からのアクセスや地域との結びつきにいい影響を与えてくれるのではと思っているので、何とか来年には最後の舗装をしていただきたい。

(市長)

鳥取西道路インターからのアクセスも非常に重要だと思っている。道路整備はすぐには難しいかもしれないが、将来必要になってくる部分だと思う。

浜村温泉はかつての賑やかさがなくなってきたということだが、新しい時代の温泉のあり方をこれから考えていかなければならないと思う。また、事業会社も設立されるということで、一緒になって地域づくりにつながる取組みをしていきたいと思っている。

(気高町総合支所長)

最近焼き菓子屋やパン屋が出来ると、賑やかな雰囲気になりつつある。実際、中古車屋(ラーメン屋)が新聞等でも取り上げられており、ここが面白いところだぞという雰囲気が出てきていると思っている。住民の方も協力的に受け入れていただき、昼間や休みの日に若い人が街中を歩く姿を見かけるようになった。

空き家をどのように活用していくかという話もお聞きすることがある。まだ具体的になっていないところもあるが、非常に楽しみにしている。

浜村乙亥正線の話があったが、道の駅に関連した下水の整備ということがあり、遅れているのが実態である。並行した水路等も改修が必要だと聞いているので、来年度の完了は厳しいかと思っている。なるべく早くアクセスをよくして、この温泉館や浜村温泉街に人の流れをつくっていききたいと思っている。

(地元)

この道の駅の名前には、できれば地名が入ったほうがいいと思う。西いなばだけではどこにあるか分からないような気がする。

(市長)

ご意見としていただく。ただ、申し訳ないが、公募をして決まったので、今から変えることはできない。

(市長あいさつ)

平成16年11月に9つの市町村が1つになって合併した。人口が減り、ひとつもいいことがないといった話をこれまで伺ったこともあるが、いよいよこの西いなばが将来に向かって大きく発展をしていく時期にきたという思いでいる。ただの通過点にならないよう、我々の工夫や取り組みが必要であり、地域の皆さんと一緒にまちづくりを進めていくことに尽きるのではないかと思う。この浜村地区には温泉をはじめ、すばらしい資源がまだまだたくさんある。それらをいかに生かしていくかという思いで、一緒になって進めていきたい。